

会員便り

北海道日高町での「第54回全国ホテル研究会」を終えて

第54回全国ホテル研究会北海道日高大会
主管 日高地域活性化協議会会員 高橋 健

新型コロナウイルス感染症が5類となった2カ月後の7月14日から16日までの3日間、北海道日高町で第54回全国ホテル研究会北海道日高大会を開催しました。全国、道内各地から60名の参加者、日高町、日高町教育委員会、日高地域活性化協議会会員・事務局など多くの皆様方のお力添えにより、なんとか無事に大会を終えることが出来ました。ありがとうございました。

全国ホテル研究会の会員でもない私が、なぜ大会開催を引き受けることになったのか。といいますと長年に渡り、当町へ移住体験に来られていました全国ホテル研究会会員の宮地政幸氏から、コロナ渦で大会を引き受ける場所がない。収容人数が大きい(400人規模)国立日高青少年自然の家を会場にして、なんとか開催してもらえないかという一本の電話からでした。

遊磨会長からも電話を貰い、町役場が事務局となる実行委委員会組織化を検討しましたが、ホテル発生時期と夏の最大イベントとが重なることから町役場の参画は難しいこととなり、開催を中止することも選択肢としてありました。しかし、どこにも引き受け手がないという状況でしたので、私が会員の日高地域活性化協議会に打診して、宮地氏ら全国ホテル研究会の会員と私とが受入れ事務一切を引き受ける条件で開催する運びとなった次第です。

また、ご参加頂きました皆様には実感していただきましたが、私が住み、主会場とした国立日高青少年自然の家のある日高地区と、町役場本庁舎があり歓迎式やホテル保全活動見学のオコタン川のある門別地区は、陸上では国内最遠の飛び地合併町でその距離は65kmもあります。

私が引き受けた以上、実施したかったことは、両地区での開催でありました。とくに門別地区の、NPO法人沙流川愛クラブが長年取り組んでこられた、オコタン川のホテル保全活動地見学と蛍太鼓の演奏鑑賞、この二つは外せないという想いがありました。そこで令和4年8月に遊磨会長、中山事務局長、宮地会員が当町に来られた際には、日高町の大鷹町長に加え、NPO法人沙流川愛クラブの工藤理事長、蛍太鼓の本間会長らにお会いして頂きました。

令和4年8月段階では、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない時期であり、公共施設や温泉施設の利用制限が続いている中でも、交流会の開催を模索していました。その中で主会場とした国立日高青少年自然の家では、屋外のキャンプファイヤーであれば交流会の実施は可能との言葉をいただき、開催要項に盛り込んだ次第です。

開催時期は、確かに新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後でありましたが、開催内容検討、開催要項作成、開催案内発送時期は5類移行前でしたので、さまざまな制約をかけることになったことを改めましてご理解賜りたいと思います。

主会場が、研修施設である国立日高青少年自然の家であったために、さまざまな制約があり、参加者の皆様には文書でお伝えしておりましたが、一部の参加者にご理解を頂けなかったことは非常に残念なことであります。

7月14日（金）

13時30分から国立日高青少年自然の家玄関ホールにて受付が始まりました。15時に各宿泊施設から専用バスで門別地区の門別総合町民センターに移動し、17時から歓迎式が始まりました。遊磨会長の主催者挨拶、日高地域活性化協議会の大野正夫会長による主管者挨拶、日高町の大鷹千秋町長の歓迎挨拶の後、来賓紹介があり、一言ずつご祝辞をいただきました。

北海道議会議員 藤沢 澄雄 様

北海道議会議員 小林 雄志 様

日高町議会議長 神保 一哉 様

日高町教育委員会教育長 武田 啓嗣 様

NPO法人沙流川愛クラブ理事長 工藤 正史 様

そして歓迎アトラクションとして、蛍太鼓（本間峰生会長以下20名）の勇壮で繊細なバチ捌きを鑑賞頂きました。

18時15分にバスでオコタン川へ移動し、当初は保全活動についてNPO法人沙流川愛クラブの会員らと意見交流のみを行う予定でしたが、ホテルを観賞したいとの参加者の総意で、見学時間を45分ほど延長し、20時15分まで見学を行いました。例年は7月下旬の鑑賞会ということでホテルは見られないだろうという予測に反して、オコタン川の河畔林を飛ぶ多くのヘイケボタルを鑑賞することが出来、参加者の方々に感動を与えてくれました。

7月15日（土）

9時から国立日高青少年自然の家サンゴの家で総会が開催され、第55回の開催が大分県中津市であることが確認されました。

10時から遊磨会長による特別講演「ホテルの水 人の水」から始まり、午前中に道外会員3本の発表、午後からは道内活動3本発表、遊磨会長が座長となり、道内発表者と語り合うシンポジウム「里山の生態系とホテル」が行われました。

17時からの夕食・交流会も雨天でしたが、国立日高青少年自然の家の屋外施設「グリーンホール」を会場に行いました。農家のお母さん方手作りのおにぎりとお高名物のバケツジンギスカンの夕食に引き続き、雨天のため中止になったキャンプファイヤーに代わり、日高地域活性化協議会員が急遽、焚き火を催してくれ、その火を囲みながら、日高の産物を食し、飲みながら語ることが出来ました。そして、大会旗を日高地域活性化協議会から、大分県中津市のNPO法人耶馬溪ほたるの会へと引き渡し、次期開催地を代表してNPO法人耶馬溪ほたるの会の松葉明子理事長の挨拶が行われました。

7月16日（日）

各体験プログラムを行い解散となりました。

最後に、次回開催地の県中津市での成功を願い、また今大会にご参加、そしてご協力頂きました皆様に御礼を申し上げ報告いたします。



日高町大鷹町長 歓迎挨拶



歓迎アトラクション「蛸太鼓」



遊磨会長特別講演



ホタル保全活動地見学



オコタン川 工藤理事長解説



北海道地区活動報告
 (左上：富良野地区 右上：栗山町
 左下：日高地区)



ひだから交流会
 (焚き火・大会旗
 引き継ぎ・次回開催地挨拶)

第54回全国ホタル研究会大会報告

1. 研究大会の概要

(1) 概要

全国ホタル研究会の第54回大会が令和5年（2023年）7月14～16日の3日間、北海道日高町にて開催され、全国各地から60名のご参加をいただきました。北海道では恵庭大会（第30回）、稚内・豊富大会（第51回）に続き、3回目の開催となりました。まだまだコロナウィルス禍の不安が残る状態ではありましたが、みなさまのご協力のもと、全国大会を開催することができました。ありがとうございました。

主催：全国ホタル研究会

主管：日高地域活性化協議会

協力：NPO法人沙流川愛クラブ 蛍太鼓

後援：環境省 国立日高青少年自然の家 日高町 日高町教育委員会 日高町議会
日高町商工会 日高町観光まちづくり協会

(2) 会場

主会場：国立日高青少年自然の家

歓迎式会場：日高町門別総合町民センター

ホタル保全活動見学地：オコタン川

(3) 大会日程

7月14日（金）

13：30～ 参加者受付

17：00～ 歓迎式

主催者挨拶	遊磨 正秀（全国ホタル研究会会長）
主管団体挨拶	大野 正夫（日高地域活性化協議会会長）
歓迎挨拶	大鷹 千秋（日高町長）
来賓紹介・祝辞	藤沢 澄雄（北海道議会議員）
	小林 雄志（北海道議会議員）
	神保 一哉（日高町議会議員）
	武田 啓嗣（日高町教育委員会教育長）
	工藤 正史（NPO法人沙流川愛クラブ理事長）

歓迎アトラクション 蛍太鼓演奏会

18：20～ ホタル保全活動見学 「オコタン川」

7月15日（土）

09：00～ 全国ホタル研究会総会

10：15～ 特別講演

「ホタルの水 人の水」

遊磨 正秀（全国ホタル研究会会長）

発表（道外会員）

「ゲンジボタルの養殖には湧水が最適」

千葉 豊（岐阜県）

「長野県におけるヒメボタルの雄の体サイズの特徴と分布」

井口 豊（長野県）

「守山市ほたるの森資料館におけるゲンジボタル早期羽化の取り組み」

並河 聰・加村 賀勇（滋賀県）

13：00～ 発表（北海道地区活動発表）

「富良野市におけるホタルの生息状況および観察会の変遷」

井口 和信（富良野の自然に親しむ会）

「北海道栗山町ハサンベツ里山計画地のヘイケボタルの生息地づくり」

高橋 慎（栗山町ハサンベツ里山計画地実行委員会）

「沙流川流域でのホタル生息の経緯と変遷」

平村 徹郎（NPO法人沙流川愛クラブ）

シンポジウム

「里山の生態系とホタル」

座長：遊磨 正秀（全国ホタル研究会会長）

登壇：井口 和信（富良野の自然に親しむ会）

：高橋 慎（栗山町ハサンベツ里山計画地実行委員会）

：平村 徹郎（NPO法人沙流川愛クラブ）

17：00～ ひだから夕食会

18：30～ ひだから交流会（キャンプファイヤー）

7月16日（日）

09：00～ 体験プログラム

第54回 総会報告

1. 開会の言葉 中山事務局長が開会の挨拶

2. 全国ホテル研究会会長挨拶 遊磨会長

※総会出席者数及び委任状提出者数の報告

出席者11名、委任状45名、合計56名で会則24条の規定により本総会成立

3. 議長選出 阿部 勇 氏（北海道）

4. 議案審議

〔議案1〕令和4年度（2022年度）全国ホテル研究会事業報告

中山事務局長より、以下の通り事業報告が行われた。

①会則第4条に基づき、大会誌及び情報交換誌を以下の通り発行した。

令和4年（2022年）6月2日 全国ホテル研究会誌第55号発行

令和4年（2022年）12月10日 全国ホテル研究会情報交換誌第45号発行

②会則第5条に基づき研究大会、第21条に基づき定時総会を、以下の通り開催した。

日付：令和4年（2022年）6月4日

会場：ホテルルビノ京都堀川

原案のとおり承認

〔議案2〕令和4年度（2022年度）全国ホテル研究会決算報告並びに監査報告

中山事務局長より、別紙の通り決算報告が行われた。

別紙1 令和4年度（2022年度）全国ホテル研究会決算報告並びに監査報告による。

榊原監事より、会計は適正に処理されているとの監査報告があった。

原案のとおり承認

〔議案3〕令和5年度（2023年度）全国ホテル研究会事業計画

中山事務局長より、以下の通り事業計画案が説明された。

①会則第3条及び第4条により、会の目的を達成するために以下の事業を実施する。

- ・全国ホテル研究会誌第56号の発行
- ・全国ホテル研究会情報交換誌第46号の発行

②会則第5条及び第21条に基づき、

- ・研究大会及び定時総会の開催
- ・その他、会の目的達成に必要な事業

原案のとおり承認

〔議案4〕 令和5年度（2023年度）全国ホタル研究会暫定予算

会則第34条に基づき、会の目的を達成するために暫定予算を編成し、執行した。

別紙2 令和5年度（2023年度）全国ホタル研究会暫定予算書による。

原案のとおり承認

〔議案5〕 令和5年度（2023年度）全国ホタル研究会予算

中山事務局長より、別紙の通り提案された。

別紙3 令和5年度（2023年度）全国ホタル研究会予算（案）による。

原案のとおり承認

〔議案6〕 第55回全国ホタル研究大会開催地の決定について

大分県中津市からの開催希望があり提案。

大分県中津市での開催を承認

5. その他

- ・ 第55回全国ホタル研究大会開催地を代表して、松葉明子氏（NPO法人耶馬溪ほたるの会理事長）が挨拶。
- ・ 第55回全国ホタル研究会大分県中津・耶馬溪大会は令和6年（2024年）6月7～9日の予定です。

6. 閉会の言葉 遊磨会長が閉会の挨拶